

平成29年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
教育指導の充実に関する研究グループ 活動報告

1 委員名簿

	【学習指導チーム】	【生徒指導チーム】
グループ主任	三浦礼子（名寄南小学校）	
グループ副主任	川崎 直人（智恵文小学校）	村上比呂人（下多寄小学校）
研究主任	井川 健（名寄西小学校）	谷柿 憲治（智恵文中学校）
研究副主任	襲田桂奈恵（名寄中学校）	
研究員	西森 心哉（名寄中学校） 中村 紀子（風連中央小学校） 三原 和也（名寄西小学校） 佐藤 琢磨（下多寄小学校） 中村 有彦（名寄東中学校） 佐藤 亮介（名寄東小学校）	林 琢磨（名寄小学校） 佐々木智子（名寄南小学校） 鬼原 善彦（風連中学校） 米田 真（智恵文中学校）

2 研究内容

- (1) 主体的・対話的で深い学びの理解と各学校の授業研究
- (2) 問題行動の理解, いじめ・不登校への対応の交流・研修

3 研究内容の具体

- (1) 主体的・対話的で深い学びの理解と各学校の授業研究
 - ①アクティブ・ラーニングを具体化した授業作り
 - 授業構築に先立ち, グループ内で「アクティブ・ラーニングの学び」とはどんなことなのか検討しイメージの共通化を図った。
 - 小学校算数科における研究授業実践
 - ②ICTを有効に生かすための工夫（先進事例の研究）
 - 教育ITの今後の動向及びタブレットの効果的な使い方についての研修会
- (2) 問題行動の理解, いじめ・不登校への対応の交流・研修
 - ①Q-Uの効果的な使い方に関する研究
 - Q-Uの効果的な分析の読み取りや分析結果の効果的活用についての研修会
 - 業者による集計・分析と各校におけるQ-Uの活用（小3, 小5, 中1）

4 今年度の活動経過及び予定

期 日	活 動 内 容
5月17日（水）	第2回名寄市教育改善プロジェクト委員会 名寄市で押さえるアクティブラーニングのイメージの共有化（共通化）
6月上旬	1回目のQ-U実施（小3, 小5, 中1）
6月下旬	1回目のQ-Uの回収

	授業作り構想, 授業を見る視点の確認
7月4日(火)	Q-U分析に係る講演会・学習会
7月～8月	Q-Uの戻ってきたデータを分析し, 2学期の学級経営等に役立てる
8月29日(火)	指導案検討, 授業案内, アクティブ・ラーニングの視点の確認
9月13日(水)	指導案検討, アクティブ・ラーニングの視点での子どもの姿の目安の確認
9月27日(水)	研究授業(小学校4年算数), 授業反省
11月中	2回目のQ-U実施(小3, 小5, 中1)
11月～12月	2回目のQ-Uの回収
11月20日(月)	ICT研修会
12月中	Q-Uの戻ってきたデータを分析, 成長や変化の様子を確認, 今後役に立てる
12月13日(水)	第3回名寄市教育改善プロジェクト委員会
	教育長に今年度の研究のまとめを報告(答申)
1月23日(火)	名寄市教育研究集会(EN-RAYホール)
2月6日(火)	第4回名寄市教育改善プロジェクト委員会(全体会議:成果・課題発表)
2月22日(木)	推進本部会議(次年度研究内容・組織の検討)

5 今年度の成果及び課題と今後の方向性

(1) 主体的・対話的で深い学びの理解と各学校の授業研究

①成果

- 授業実践を通して, アクティブ・ラーニングの学びについて研鑽を深めることができた。
 - ・学習のゴールをしっかりと子どもに理解させることが, 主体的な活動の姿に結びつく。
 - ・アウトプットの場を意図的に設定することや支持的風土が醸成する学級経営を充実させることが, 対話的活動の充実につながる。
 - ・授業を振り返り, 児童が何を学んだのかを確かめさせることが深い学びにつながる。
- 授業では, 目標を達成することが第1であることを押さえた上で, 学びの手法としてアクティブ・ラーニングを実践・検証することにより, 児童の深い学びに効果的であったかを研究することができた。また, 提案授業においては別表で示すような子どもの姿を評価基準とすることで, 主体的・対話的で深い学びの姿を明確にした授業を構築することができた。
- ICT研修会では, 学校教育にタブレットを活用するにあたって, 各社にそれぞれ長所・短所があることを学んだ。

②課題と今後の方向性

- 提案授業を通して, グループ交流や全体交流では, 対話する目的を明確にして授業を構築する事が大切である。
- 名寄市に導入されるタブレットが決定した後に, そのタブレットを効果的に活用する方法について研修を深めることが必要である。

(2) 問題行動の理解, いじめ・不登校への対応の交流・研修

①成果

- 学級経営の中で, 児童の実態を知る情報としてQ-Uを活用し, 担任だけでなく学校のチーム力を生かしながら課題を解決することの重要性を学んだ。

②課題と今後の方向性

- 検査後に, 分析結果から具体的な改善策を立て, どのように指導していくのか, またその指導の効果がどうだったのか, PDCAサイクルによる実践面での研修がさらに必要である。

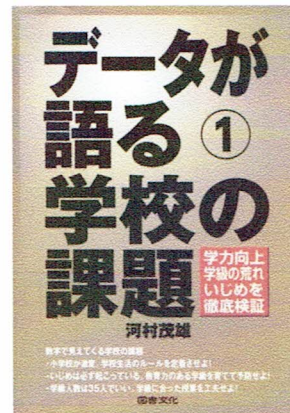
アクティブ・ラーニングの視点から授業の「子どもの姿の目安」を考える

※授業の目標はあくまでも「考え方」にあります。

		総括	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
グループの押さえ			<ul style="list-style-type: none"> ○活動の見通しがあり、自分の考えを持ち、振り返りがしっかりできている授業 <ul style="list-style-type: none"> ・解決の手立て ・次に生かす ○安心感のある学級風土により、失敗も生かして、意欲的に学ぶことができる授業 <ul style="list-style-type: none"> ・ねばり強く取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ○対話をしやすい学級環境にあることが前提としてある。 <ul style="list-style-type: none"> ・自信を持つ ○根拠を明確にするなどの伝え方、聞き方をしっかりと身につけさせた上で、考えの共有ができる児童生徒を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・明確なゴール ・視覚化 ・共有することで変容する 	<ul style="list-style-type: none"> ○支持的風土の学級経営が前提。 ○探究心を持って、課題を掘り下げ、生活に生かすことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・各教科で身につけた能力の発揮 ・自分が何を学んだのかまとめる
	A	<p>図形の面積の求め方を二つの考え方をを用いて説明している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しの段階で、どこどこが同じ長さなのか探ろうとしている。 ・より分かりやすく説明するために、ア、イなどの記号を使って説明しようとしている。 ・他人の説明をよく聞き、説明の意図を聞き返すなどして、相手の考えを理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方の違いを、整理して、根拠を明確にしてグループ内のそれぞれの考え方について仲間分けしている。 ・グルーピングの説明をするときに、根拠が明確になるように伝わるように工夫をしている。 ・友達の見え方の良さに気づき、自分の説明の 	<ul style="list-style-type: none"> ・より簡単な面積の求め方を工夫したり、友達に分かりやすく説明できる方法を考えたりしている。 ・自分がこの時間で何を学んだのかを説明している。 ・補助線を引くと誰にでも分かりやすい説明ができるということを、別な機会でも生かそうと意識している。
	B	<p>複合図形の面積の求め方を図に補助線を書くなどして説明することができる（考え方）。</p> <p>図形の補助線を引いたり、言葉などを用いたりして、図形の面積の求め方を説明している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎解決の見通しを持ち、自分の考えをもっている。 ・見通しの段階で、二つに分けたり、足りない部分を補うと長方形になることに気付いている。 ・自分の考えを「分ける」「合わせる」などの言葉を使って説明しようとしている。 ・学んだことを生かして、発展問題でも補助線を引いて、自分の考えを説明しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワークシートを使いながら、自分の考えを説明している。 ◎グループ内で意見を出し合い、考えを共有しグルーピングしている。 ・自分の考えを自信を持って説明し、友達の見え方との違いに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎キーワードを使い、児童の言葉でまとめている。 ■複合図形の面積の求め方を図に補助線を書くなどして説明することができる。 ・発展問題でも、補助線を引いて、自分の考え方を説明している。 ・グループで意見交換することにより、考えを深めることに繋がれたと実感している。
C	<p>図形に補助線を引いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> △T2コーナーで考え、方眼に書かれた図形を見て、見通しを持つようとしている。 ・見通しの段階で、今までとは形が違うことから、長方形の面積のように簡単には求められないことに気付いている。 ・「これとこれを・・・」などの言い方で、 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方を、自分の言葉で説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> △T2コーナーで、全体から一考え方について理解しようとしている。 ・補助線を引くことで、長方形の面積の足し算や引き算で複雑な図形の面積を求められることが分かる。 	

Q-U の効果的な活用について

平成29年7月4日
 旭川市立桜岡中学校
 教諭 福岡伸康



河村茂雄著「データが語る①学校の課題」図書文化、2007年



河村茂雄著「Q-U式学級づくり・中学校」図書文化、2008年

Q-U とは何か？

Q-U とは、学級集団アセスメントである。

つまり

Q-U とは、学校現場に根ざす、いじめ、不登校、学級崩壊などの問題を予防し、効果的な対応をするためのツールである。

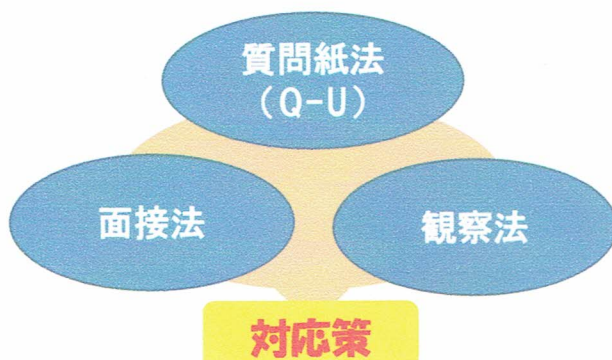
そのため

Q-U では、学級集団の状態もわかるので、学級状態を診断し、改善策を探るツールとして広く活用されている。

少し具体的には、Q-U では、

- ① 個々の生徒の学校生活における満足感や意欲
- ② 生徒の満足感や意欲の分布状況による、学級集団の雰囲気や成熟状態
- ③ 学級や学校生活における満足感や意欲に関する、生徒の学級内での相対的位置がわかる。

※Q-U は、標準化検査であり、信頼性と妥当性が保証されている。



※Q-U は、信頼性と妥当性があるが、対応策は、面接法や観察法から得られた情報も加味して総合的に検討する。

ご審査用見本

楽しい学校生活を送るためのアンケート

Q-U
QUESTIONNAIRE・UTILITIES
中学校用

約15分で調査できる

一人あたり105円で、自校で採点できるので安価である。

業者に診断してもらおうと、一人あたりさらに205円かかるが、以下のものが手に入る。

- ① 結果のまとめ
- ② 学校生活意欲プロフィール
- ③ 回答一覧表
- ④ 前回との比較表
- ⑤ 学力とのクロス集計表

※◎は知能SS, 学力SS(NRT/CRT)が必要

「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」にある尺度

1. 学級満足度尺度

承認得点
被侵害得点

2. 学校生活意欲尺度

友人との関係
学習意欲
学級の雰囲気
教師との関係 ※中学のみ
進路意識 ※中学のみ

⇒ 4象限のプロット図に表記 (P.17)。個人の満足感と、満足型・管理型・なれあい型などの学級状態がわかる

いごちのよいクラスにするためのアンケート

やる気のあるクラスをつくるためのアンケート

いごちのよいクラスにするためのアンケート

質問に対して、自分の気持ちに近い数字に「○」をつけてください。
なお、数字には決まったような意味はありません。

1 毎朝や毎晩、特別なこと(掃除・掃除機かけなど)で友人から褒められることがある。 5-4-3-2-1

2 私はクラスの中心人物かと思う。 5-4-3-2-1

3 自分と仲がいい友人がいる。 5-4-3-2-1

4 学校やクラスでみんなが注目されるような経験をしたことがある。 5-4-3-2-1

5 毎朝の朝会やクラスや部活の準備に遅れることがある。 5-4-3-2-1

6 クラスで行う活動には積極的に参加している。 5-4-3-2-1

7 学校内でも話題になれるような人だと思っている。 5-4-3-2-1

8 仲のよいグループの中で中心人物(リーダー)である。 5-4-3-2-1

9 自分が好きでしようと思ったとき、協力してくれるような友人がいる。 5-4-3-2-1

10 学校内で自分の得意な活動が出来る友人がいる。 5-4-3-2-1

11 クラスの人から褒められるようなことがある。 5-4-3-2-1

12 クラスや部活でからかわれたり、ほかにこれらをするようなことがある。 5-4-3-2-1

13 授業中に発言をしたとき先生から褒められることがある。 5-4-3-2-1

14 クラスメイトから褒められるような経験をしたことがある。 5-4-3-2-1

15 クラスで注目されるような経験をしたことがある。 5-4-3-2-1

16 クラスの中でいじめられていると感じることがある。 5-4-3-2-1

17 休み時間などに、ひとりでいることが多い。 5-4-3-2-1

18 クラスにいるときで話をして話さず、話わらぬのが気になって不安や緊張を感じるようなことがある。 5-4-3-2-1

19 学校に行きたくないと考えることがある。 5-4-3-2-1

20 私はクラスメイトと友人関係についてあまり知らない。 5-4-3-2-1

やる気のあるクラスをつくるためのアンケート

質問に対して、自分の気持ちに近い数字に「○」をつけてください。
なお、数字には決まったような意味はありません。

1 学校内には、いろいろな活動や行事が盛り込まれている。 5-4-3-2-1

2 学校内には気軽に話せる友人がいる。 5-4-3-2-1

3 人と仲よくしたり、友人関係をよくしたりする方法を知っている。 5-4-3-2-1

4 友人との付き合いは、自分の成長にとって大切だと思う。 5-4-3-2-1

5 学校の勉強には自分から進んで取り組んでいる。 5-4-3-2-1

6 学校の勉強の中で、得意な科目や好きな科目がある。 5-4-3-2-1

7 授業内容が面白く、先生や教材や授業資料がある。 5-4-3-2-1

8 学習内容がより深く理解するための、自分なりの学習の仕方がある。 5-4-3-2-1

9 学校内で自分の得意な活動ができる友人がいる。 5-4-3-2-1

10 学校内には気軽に話せる友人がいる。 5-4-3-2-1

11 担任の先生とはうまくいっていると思う。 5-4-3-2-1

12 先生の前でも自分らしくふるまえている。 5-4-3-2-1

13 自分のクラスは他のよいクラスと思う。 5-4-3-2-1

14 クラスの中心にいると、ほろほろしたり、緊張感を感じる。 5-4-3-2-1

15 クラスの行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。 5-4-3-2-1

16 自分もクラスの活動に積極的に行っていると思う。 5-4-3-2-1

17 やりたい活動や興味を持っている経験がある。 5-4-3-2-1

18 自分の将来に夢や希望を持っている。 5-4-3-2-1

19 自分が進みたい進路の分野については自分から調べている。 5-4-3-2-1

20 進路について他のよい友人や友達と話し合っている。 5-4-3-2-1

やる気のあるクラスをつくるためのアンケートの集計結果

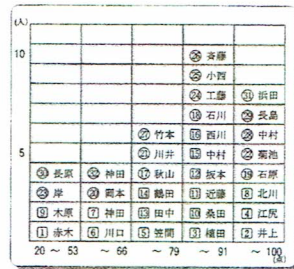


図3 学校生活意欲総合点の分布

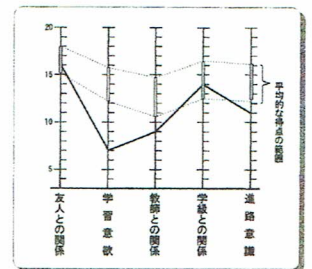


図4 ある生徒の学校生活意欲プロフィール

結果への対応は、「Q-U実施・解釈ハンドブック」p.14~19参照

楽しい学校生活を送るためのアンケート

Q-U
QUESTIONNAIRE UTILITIES
中学・高校用

実施・解釈ハンドブック

「Q-Uの解釈と活用が示されているので、今後の実践を充実させるための指針となる。指導事例も載っており、参考になる。」

学級経営についての研修会のポイントや展開の仕方が示されている。

教育実践を自己分析する尺度も示されている。

いごちのよいクラスにするためのアンケート結果のグラフ

承認得点
1~10の合計点

被侵害得点
11~20の合計点

※自己中心的
※トラブル起こしている可能性あり
※被害者意識が強い

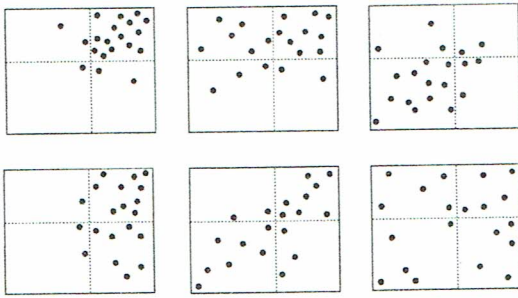
※不適応やトラブル少ない
※意欲的である

※いじめられたり、不適応の可能性あり
※居場所無く、不登校の可能性が高い

※早急の支援が必要

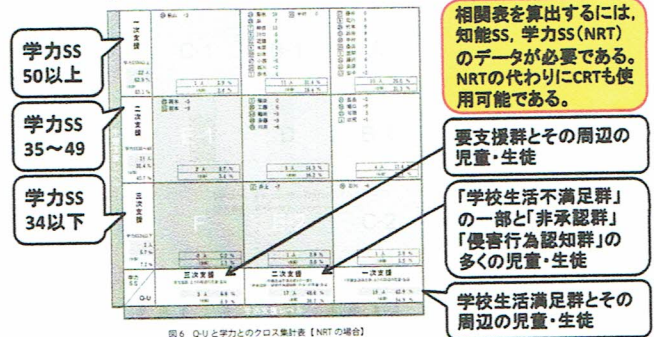
※学級内で認められることが少ない
※自主的活動が少ない

いごちのよいクラスにするための アンケートの解釈と対応



対応は、「Q-U 実施・解釈ハンドブック」
p.20～27参照

学力とのクロス集計相関表



対応は、「応研レポートNo.81」
p.9～12参照(配付した資料に添付)

Q-U から得られたデータを どのように使うのか

- A やる気のある学級やいごちのよい学級をつくるため？
- B いじめを防止するため？
- C 不登校の可能性が高い児童・生徒を早期に発見して対応するため？
- D 学力を向上させるため？

- 教師が強い危機感や必要感を持っていること
- Q-U を使う目的を明確にすること
- 目的を達成するための組織と雰囲気をつくること
- ※得られるデータが多いただけに、目的を明確にして焦点化した対応をしなければ、「検査をしただけ…」という残念な結果になりかねない。

A やる気のある学級をつくるため、低意欲生徒への対応を例とする 1

●教師の対応の仕方●

- ①教師に厳しさや不信感を感じている場合も多いので、細やかな対応が必要である。
- ②生徒全員が認められる機会や場面を、意識して設定する。

「Q-U 実施・解釈ハンドブック」p.15より

この生徒に対して、①②の対応は
実際にどうすればよいのか？

●教師の戸惑い●

- ①のきめ細やかな対応とは、例えばどんなこと？
- ②の認められる機会って、あの子に
ある？

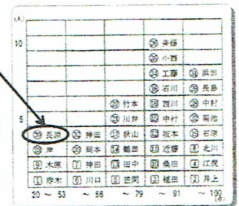


図3 学校生活満足総合点の分析

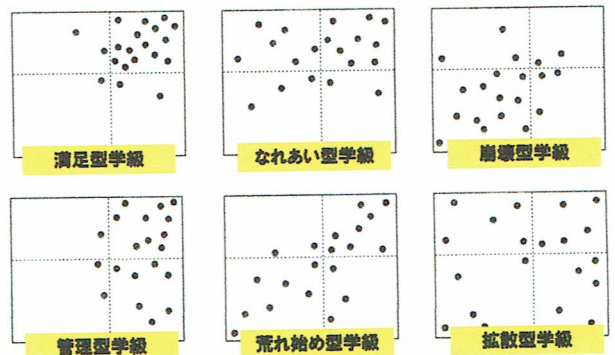
A やる気のある学級をつくるため、低意欲生徒への対応を例とする 2

●対応に行き詰まったときにどうするか●

- ①当該教師に強い危機感や必要感がなければ、考えが行き詰まった段階で止めてしまう。あるいは、行き詰まる前に何もすることなく止めてしまう。
- ②目的を達成するために、具体的な対応の方法を相談する組織がなければ、結局何をすれば良いのかわからず止めてしまう。
- ③組織に相談したとして、親身になって相談に乗ってくれたり、効果的なアドバイ스가あつたり、いろいろなアイデアを楽しく言い合えたりするような雰囲気がなければ、相談する方が損なので止めてしまう。(組織に相談したために返って、「あなたの学級経営は、生徒との関わりそのものがよくない！」などとレッテルを貼られるようなら、相談すること自体が教師の協働体制を壊してしまう。)

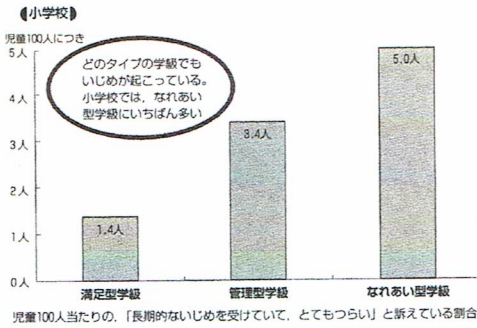
【強い危機感や必要感】【目的の明確化】【組織と雰囲気】は、学校全体として取り組むときには、とても重要である。参考:「Q-Uを活用した、温かい学級づくりの研究」(配付した資料に添付)

B いじめ防止の方法の一つは、 いじめの発生しづらい学級にすること 1



B いじめ防止の方法の一つは、いじめの発生しづらい学級にすること 2

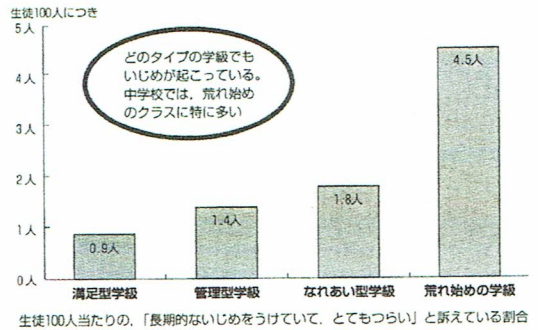
【Data 12】 学級タイプ別いじめの出現率



19

B いじめ防止の方法の一つは、いじめの発生しづらい学級にすること 3

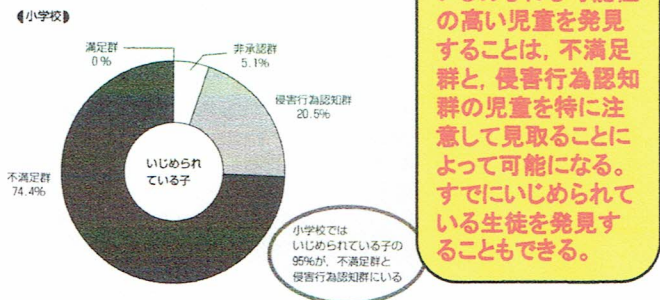
【中学校】



20

B いじめ防止の方法の一つは、いじめの対象になりやすい児童・生徒を事前に把握し注意深く観察すること。1

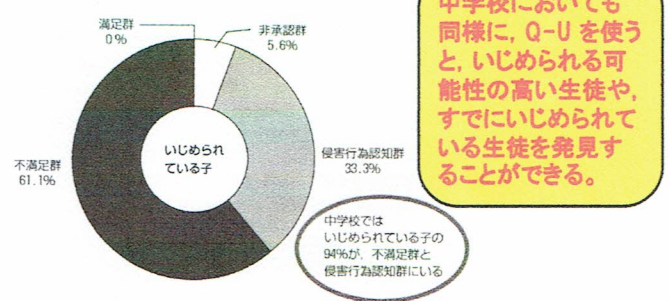
【Data 1】 Q-Uにおけるいじめの4群での出現率



21

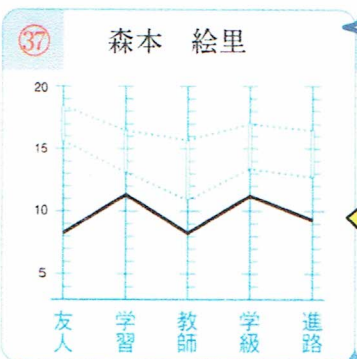
B いじめ防止の方法の一つは、いじめの対象になりやすい児童・生徒を事前に把握し注意深く観察すること。2

【中学校】



22

C 不登校防止の方法の一つは、不登校に陥りやすい児童・生徒を事前に把握し適切な対応を続けること。

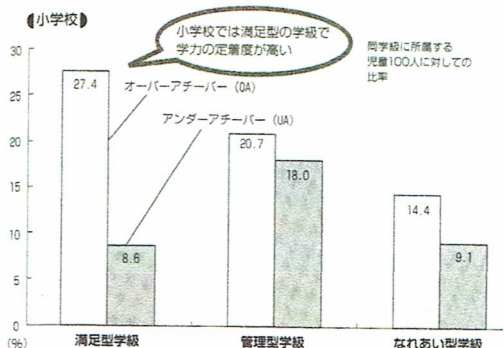


左のように低意欲生徒群(中学校では学校生活意欲総合得点が71点未満)の生徒は、学級集団の適応に問題があり、不登校に至る可能性があるといえる。

23

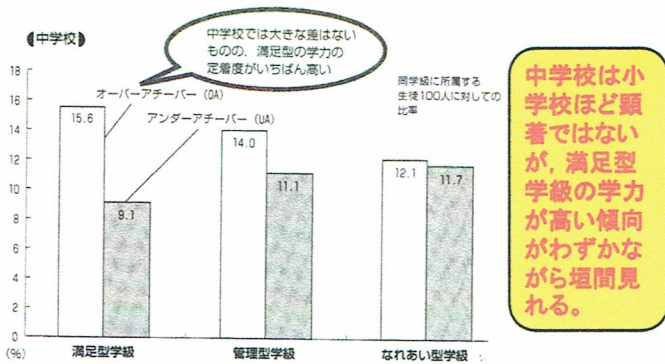
D 学力を向上させる方法の一つは、満足型学級にすること。1

【Data 6】 学級集団と学力



24

D 学力を向上させる方法の一つは、満足型学級にすること。2



25

D 学力を向上させる方法の一つは、満足型学級にすること。3

●満足型学級の学力が高い理由●

満足型学級では、規範と親しい人間関係が育っているため、①～④のような児童・生徒がともに磨き合う相互作用が生じる。

- ①みんなとかかわる中で、学習意欲が喚起される。
- ②互いを認め合うことができるので、学習意欲が持続する。
- ③友達のいい学習方法をモデルにして取り入れることができる。
- ④主体的な学習習慣が形成され、学習活動に広がりや深まりが起こり、学習が定着する。

河村茂雄著「データが語る①学校の課題」図書文化、2007年、p.43 より

25

Q-U の結果をもとにした研修会の雰囲気づくり

- ①学級集団の事例を提出してくれた担任教師が元気になるようにする。
 - ・担任教師の責任を追及するのではない。これからどうするかといった問題解決思考で考える。
- ②研修会の参加者全員が、学級集団や児童・生徒をとらえる視点が広がり、柔軟になるようにする。
 - ・少数の考えも大事にする。
- ③研修会の参加者全員が、学級集団の理解と対応する能力が向上するようにする。

★学級経営の研修会は、教師同士の連携とチームワークづくりが第一で、その上で能力の向上を目指すことをおさえる。

「Q-U 実施・解釈ハンドブック」図書文化、p.42～43 より

27

●事前にいただいた質問事項●

- ① 分析結果をどのように活用したらよいか？
 - ・分析結果を効果的に使用した具体例が知りたい

◆①への返答◆

- 分析・解釈ハンドブックの対策を基本とする。
- しかし、細かな指導法まで書かれていない場合もあるので、具体的対応は個人や学年団で考える。
 - ・早めに対応することが大切である。
 - ・学年団の連携と雰囲気が重要なポイント
- 学年主任のリーダーシップはとても大事
 - ・日々の忙しさに、しなければならない対応をできないこともある。そのとき学年主任にはその状況を打開する力量が求められる。

●事前にいただいた質問事項●

- ② 1回目と2回目の分析結果の相互の関係性、活用法は？

◆返答◆

2回目は、1回目と同様に学級の状態を見取るために行う。しかし同時に、1回目の結果をもとに実践した対策の効果を見取るためでもある。効果があればその対策を継続し、なければ別の方法を考える。

以前勤めた学校の第1学年経営の基本方針

以下、以前勤務した学校での事例を紹介する。

集団に適応することが苦手な生徒を把握し、改善の手立てを適時講じる。

日常的な観察や教育相談はもとより、第1学年では予算に応じてQ-Uを活用することにした。

思いやりや優しさを基盤とし集団の中で自分を表現する方法や関わり方を身に付けさせる。

構成的グループエンカウンター (Structured Group Encounter → SGE) ソーシャルスキル教育 (Social Skill Education → SSE) なども計画的に実施することとした。

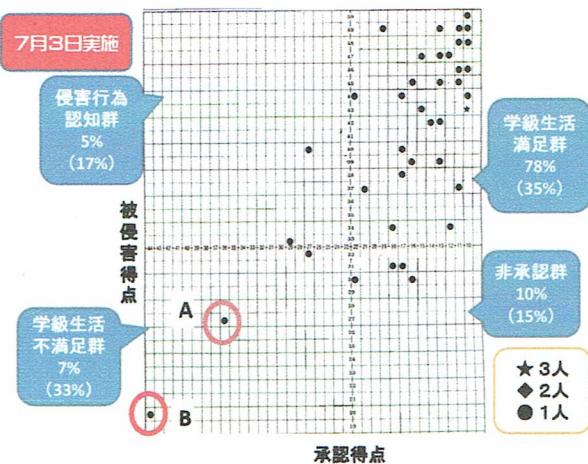
4月の学級活動の時間で行った SSE, SGE などの体験的活動

No	エクササイズ・タイトル	No	エクササイズ・タイトル
1	自己紹介をする	9	上手な断り方
2	アートギャラリー	10	話の上手な聴き方
3	仲間の誘い方	11	頼み方の基本
4	上手に仲間に入りたい	12	夏休みの思い出を語ろう
5	もしなれるなら何になりたい	13	断られたとき
6	私がしたいこと BEST5	14	スゴロクトーキング
7	感じのよい挨拶	15	バラバラのイメージ
8	温かい言葉かけ		

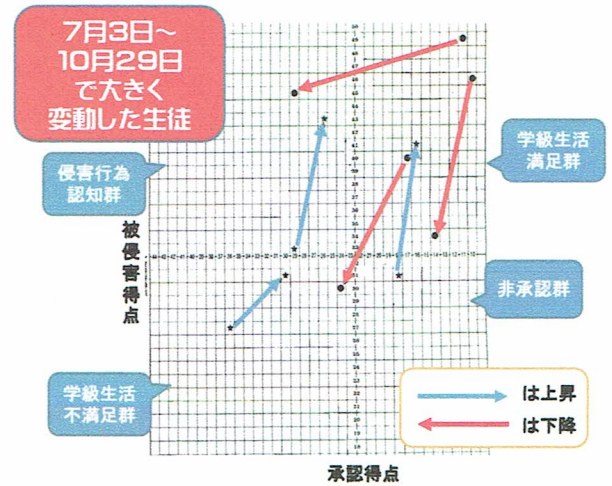
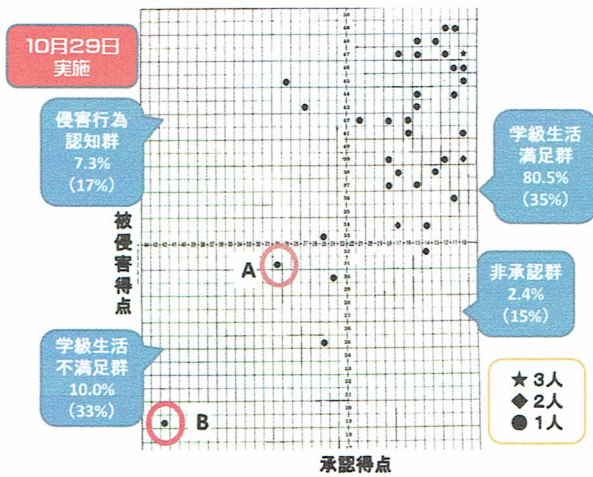
5月の宿泊研修で行った SGE などの体験的活動

No	エクササイズ
1	挨拶ジャンケン
2	トラストアクション
3	パスデーリング
4	インタビューによる他己紹介
5	フラフープ渡し
7	広告パズル
8	新聞タワー

学級活動でソーシャルスキルシステムの活動を多くしていたので、宿泊研修ではエンカウンターを多くした。



- 不満に感じている生徒が少ない満足型の学級になっているので、これまで通りの学級経営を継続した。(ただし、時数の関係で、SSE, SGEの回数は大きく減らした。)
- Aについては、学級になじめていない様子がうかがえた。面接でもその通りだった。そこで、周囲の子に頼んでAに声をかけてもらうようにした。
- Bについては、仲のよい友人もいたし、いじめは確認できなかった。Bを嫌っている生徒も確認できなかった。自分に自信を持てていなかったが、それが原因でこの位置にいるとも思えず、適切に対応できなかった。結局、しっかり自分で進路を決めて2年後に卒業した。



- 依然として不満に感じている生徒が少ない満足型の学級を維持できていたので、7月以降の取り組みは効果的であった。これまで通りの学級経営を継続することとした。
- Aについては、多少学級になじめてきた様子が見えかけた。周囲の子の細やかな配慮が素晴らしかった。
- Bについては、これまで同様に困ったようではなかった。Q-Uの結果にも大きな変化はなかった。
- 満足型であったため学級集団に対する指導で苦勞することは少なかった。個別の生徒への対応は、対応生徒を少数に絞り込めたことがよかった。人数が多ければ上手に対応できなかったかもしれない。

今提示した3名以外にも、質問調査項目を追っていくと気になる生徒が数名いた。それらの生徒には担任が個別に面接を行い指導のきっかけとした。

- 検査をしたら可能な限り早期に対応すること
・面接 ・声かけ ・進路相談 ・授業の改善
・学級レク ・必要な情報の提供 SGE, SSE etc.....
- 検査結果を見て、担任が対応に困ったときは、教師団で検討して取り組み可能な対策を考えること。多くの視点から検討すると効果的である。
- 結果はグラフだけでなく、質問項目への回答についても見ていくとよい。ある1つの質問の返答だけ落ち込んでいることがある。
- 気軽に相談できる教員間の雰囲気の方が大切である。

